

網張ビジターセンター ニュースレター



Vol.74
2017.9



ミカドフキバッタの青色吐息…

amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori

* 網張の森の生き物たち *

amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori

トカゲに捕われた“ミカドフキバッタ”

朝晩が涼しく過ごしやすくなってきた8月の下旬、休暇村本館へ続く木道でヒガシニホントカゲに捕食されているミカドフキバッタに出くわしました。いつもはのんびりムードで日向ぼっこをしているトカゲですが、この時は目がランランとして、鋭いハンターの顔。さながら小さな恐竜のようでした。驚くほどの跳躍を見せるバッタの足は、外敵から逃れるためのものでもあります。今回はトカゲが一枚上手だったようです。

バッタは孵化した時から成虫とほぼ同じ形をしている“不完全変態”で、蛹になるチョウなどとは異なる過程で成長します。開けた草地で生き抜くには小さくても速やかに動けることが必須条件。草や地面と同色の体、一瞬で目の前から姿を消してしまうジャンプ力を持っていても食べられてしまうバッタですが、森の生きものの食を支える重要な役割も担っています。

What is “Mikadofukibatta”?

「山にすむ翅の短いバッタ」

バッタ科

全長：19～39mm 前後

分布：北海道、本州

昼行性で、少し湿った林縁に生息し卵で越冬する。翅は短く飛べない。眼から翅までの黒い線がはっきりしている。高山には翅の退化したハヤチネフキバッタが生息。バッタの大発生は気象や天災の他に、人間が林を切り開いたりすることも大きな要因となっている。

amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori amiharinomori



釣鐘形の山が連なる中でも、ひときわ目をひく存在

網張から見える 山ノート

8 ページ目 なんしやうざん 南昌山

なんしやうざん
南昌山
標高：848m
位置（網張 VC から）：南東
登山適期：林道開通後の4月下旬～11月
中旬
特色：志波三山の一つで、矢巾町と雫石町にまたがる。かつて活動した火山が風化浸食を受け、火道が露出した岩頭と呼ばれる地形。

南昌山神社の大杉は、ほれぼれとするような立派な佇まいでした。あまり知られていませんが、神社前の林道には斜面を登る梯子がかかっており南昌山に至る登山道があります。このコースは南昌山の東側にある前倉山を經由するもので、1999年の県民体育大会山岳競技の際に整備がなされたそうです。細い広葉樹林帯に覆われた急勾配の稜線を登り始めましたが、正直楽じゃありませんでした。背の高いアカマツも多く自生し、おかげで展望がきく開けた地点はほとんどなかったでしょう。



南昌山山頂手前の斜面はいよいよ急で壁のようでしたが、設置されたロープや樹の根などをつかんでなんとか登頂。山頂では木々の隙間から、盛岡の岩山方面を望む事ができました。帰りは宮沢賢治が「南昌山の肩」と呼んだ五合目を經由するルートを下り、約4kmの林道を歩いて矢巾温泉に帰着。ミンミンゼミが秋の訪れを「受け入れない！」とばかりによどみなく鳴いていたのが耳に残りました。



前倉山を越えていったん下ると、ようやく山頂がみえた



泰然としたアスマヒキガエル

山頂には雨乞い信仰の権現として複数の獅子頭が鎮座している。



アミハリ・バード Vol. 17

ホオジロ

科名：ホオジロ科
全長：約 16.5cm
生態：留鳥
分布：北海道～九州

鳴き声

チチッ、チチチッ、
チョッピーチリーチョ、
チョッチョッスチョホイツケ



K. Hirono '17

開けた高い場所で、物怖じせずに鳴いている印象の強い鳥です。網張では休暇村とビジターセンターを結ぶ湯ノ沢大橋や、スキーゲレンデのリフト降り場などで見かけた事があります。

さえずりは複雑で、一羽の雄で10数曲のレパートリーがあると。聞きなしとして「一筆啓上仕り候」や「源平つつじ、白つつじ」などが有名です。

鳥名の語源ですが、「頬が白い」の他に、「頬を著しく膨らませて鳴く」様子から「ホホイチジロシ」→「ホオジロ」と変化したとされる説も。頬は白じゃなく黒だという人も納得の由来！？

十和田八幡平国立公園内の温泉を訪ねて

十和田八幡平国立公園のテーマ～みちのくの^{せきりょう}脊梁～原生林が彩る^{せいひつ}静謐の湖水、息づく火山と奥山の湯治場～その奥山の湯治場を訪ねます。今回は岩手、秋田の県境に近い名湯「国見温泉」です。

其三 国見温泉

昭和 14 年に山小屋式の温泉場として開業した「森山荘」、開業して 200 年もの歴史のある「石塚旅館」、雫石町営で日帰り施設の「国見山荘」(日帰り)を総称して国見温泉と呼び、昔ながらの建物や浴槽での入浴を楽しんだり、秋田駒ヶ岳の登山基地として県内外から多くの方が訪れています。

今回は「森山荘」3 代目のご主人から、開業当時から現在までの国見温泉の様子についてお話を伺い、参考にさせていただきました。

現在の源泉は建物から約 100m 東側からパイプで引湯し、色は国見温泉の代名詞となっている「エメラルドグリーン」です。源泉は無色透明ですが、お湯の中に含まれる藻の一種が紫外線により光合成することで緑色に変化する説やお湯に含まれる化学物質が光によって緑色に見えるなどの説があるようです。昭和 10 年に発見した源泉とは場所も異なり、その当時は真っ黒な温泉だったとか。泉質は含硫黄ナトリウム炭酸水素塩泉で、浴用だけではなく飲用でも効果があるとのこと。試しに飲んでみましたが“良薬は口に苦し”でした。現在の建物は昭和 38 年頃に建てられましたが、その当時は道路も未整備で建物の資材は途中までしか運べず、それ以降は登山ブームに伴い



(かつての建物の様子 森山荘提供)

入山していた学生たちにも手伝ってもらうなど全て人力で運びました。その頃の利用客は鉄道で安栖駅(現在の赤淵駅の北西側にあり、今は廃駅)まで行き、そこからはほぼ一日がかりで国見温泉を目指しました。湯治客の荷物や食料などは橋場集落の強力を雇うなどして運んでもらったようです。荷揚げが容易ではなかったため湯治客の置いてゆく食料は大変貴重で、その分の宿代を割り引くこともありました。昭和 45 年には秋田駒ヶ岳が噴火しましたが、まるで花火のようで、それを見物するために多くの方が訪れ、屋台も出るなど大変な賑わいだったようです。現在も冬期間は雪に閉ざされて営業できないため、一番の苦労は半年間の営業終了後に温泉パイプを外すなどの冬支度や春の営業開始のための準備だとか。「素朴な佇まいを残してほしい」との要望もあるなど、利用する人に“何だか懐かしい”と感じさせてくれる温泉です。



露天風呂。温泉に入りながら海拔 860m からのロケーションが堪能できる。

8 月 17 日から一週間、関西学院大学総合政策学部の大学生 5 名が網張ビジターセンターで国立公園の整備や自然ふれあい活動を体験。「バスの運転手さんの岩手弁を聞くと本当に岩手に来たのだという実感がわきました」(紗季)、「人間が外来生物を持ち込み、そこから自然の生態系に悪影響を及ぼしていることを痛感」(怜也)、「炭焼職人の『いつかやりたいは一生やってこない』という言葉が印象的」(友里奈)、「炭火で炊いたお米がおいしく感動しました」(航祐)、「庭では雑草でもここでは、森を構成するものだと気づきました」(麻衣)。最終日には、実習の締めくくりとして森をフィールドとした子ども向け環境教育プログラムの作成に取り組みました。今後、若い人達のアイデアをビジターセンターでも大いに活用させていただきます。

関西の大学生は森で学んだ◆◆



大学生が実習で作った手作り展示



9 月 5 日に滝沢市立一本木小学校の 1、2 年生が「網張の森」で森林学習を行いました。案内は森のスペシャリスト、盛岡森林管理署の森林官さん達。5～6 人ずつのグループに分かれて自然観察ビンゴ、普段は厳しい森林官も、可愛い子ども達の鋭い質問にタジタジ。その後は「ハンターゲーム」で森の中を走り回り、子どもが森の一部になったよう。午後はビジターセンタースタッフと一緒にネイチャーゲームに参加。自然の豊かな森は遊具やバーチャルゲームが無くても十分に子ども達を満足させたようです。



「この夏も忘れられない体験をしたね！」



7/29 国立公園で楽しむ親子の自然体験Ⅱ
「網張・夜のいきもの観察会」



闇の中の子供達の表情が昼間のそれと全く違うのは、本来持っている野生が目覚めるからでしょうか？三井先生のライトトラップで集まってきた虫の種類之多さに驚き、「コウモリの保護を考える会」が準備したハーブトラップに入ったカグヤコウモリには「可愛い」との声が。参加者総勢 43 名

8/6 国立公園で楽しむ親子の自然体験Ⅲ
「ナイトハイクと星空観察」

空気の澄んだ網張で寝転んで満天の星を見て欲しいという願いは今年も天に届きませんでした。それでも盛岡市子ども科学館の里見さんと高橋さんによるミニプラネタリウムを使った月と星のトークショーで会場は大盛り上がりでした。参加総勢 34 名



8/19 国立公園で楽しむ親子の自然体験Ⅳ

「炭火でお米を炊いてみよう」
「わあ！」土鍋のふたを開けるたびに子供達から歓声が上がります。湯気の中からふっくら炊きあがったご飯。炭焼き人の坂内信彦さんの指導で薪割りから七輪での炭熾し、貴重な体験をしました。参加者総勢 29 名



9/9「岩手山山頂で賢治の作品を味わう」



雲の上で宮澤賢治の作品を読む感動を味わった経験は、忘れることは無いでしょう。関 敬一先生の澄んだ朗読の声に他の登山者達も一瞬、足を止めていました。参加者総勢 25 名

これからの
網張ビジター
センター
活動プログラム
(予定)



- 10月22日(日) 網張ビジターセンター集合 9:30~12:30 参加費 500円 (小学生 300円)
網張高原温泉郷運営協議会と共催「秋の網張高原ハイキングでリラックス」
定員：20名
- 10月28日(土) 網張ビジターセンター集合 9:30~14:00 参加費 500円 (中学生以下 300円)
国立公園で楽しむ親子の自然体験Ⅴ「自然クラフト教室」
定員：親子10組 20名 講師：田中 潔氏 (工房 寿限無)
- 11月12日(日) 網張ビジターセンター集合 9:30~14:00 参加費 2,500円 (材料費込み)
クラフト教室「アケビのつるでかご作りに挑戦」
定員：20名 講師：田中 潔氏 (工房 寿限無)

◆現在開催中の網張ビジターセンター企画展◆ 9.1 - 10.31 ビジターセンター企画展示コーナー



「日の出を待つ二人」 十和田八幡平国立公園 岩手山
Promenade above the clouds 撮影：工藤 紀恵

Ranger
レンジャーって知っていますか？

環境省
レンジャー
写真展
2017

◆ ◆ ◆
世界遺産地域、国立公園、鳥獣保護区など自然豊かなフィールドで活動する東北のレンジャーが日常の業務中に撮影した、とっておきの写真を展示しています。

美しい景色に目をうばわれ心を癒されました。環境を守り、保護されている方々のおかげも大きいのだと。感謝し自分にもできる事は協力できたら・・・感じます (見学者アンケートから)

モモンガのつぶやき

ギリッとした暑さを感じないままに過ぎた8月でしたが、それでも県内外から多くの方が来館して下さいました。恒例行事のようにVC業務をお手伝いしてくれた東京の少年、猛暑の関西からインターンで来てくれた学生たち。ひと時の賑やかな時間は瞬間に過ぎ去り、「また会おうね」と何度も手を振ると、何やら取り残されたような寂しさがこみあげてきました。ここは「こんにちは」と「またね」を繰り返してゆく場所なんだなあ。(佳)



十和田八幡平国立公園 網張ビジターセンター

来館者数 ◆7月 2,122人 ◆8月 2,100人

ビジターセンター朝9時平均気温 ◆7月 9.3℃ ◆8月 10.7℃

発行 網張ビジターセンター運営協議会

〒020-0585 岩手県岩手郡雫石町長山小松倉 1-2 (網張温泉)

TEL 019-693-3777 FAX 019-693-3778

URL <http://amihari17.ec-net.jp>

E-mail amihari@vanilla.ocn.ne.jp

開館 9時~17時 夏期(4月から10月末まで) 休館日なし
冬期(11月から3月末まで) 毎週火曜日休館